

ヒトの学習をどう指導するか

鷹取 健

現行中学校理科教科書で、かつて大日本図書版に1頁分あったニホンザル類の記事は無くなっており、サル類の学習がついに中学校教科書では扱われなくなっている。けれども、霊長類とヒトの出現の学習はどこかの学年ですべきであろう。また、日本列島にすむニホンザルの生態や「食害」問題を扱うようにしたい。

2007年8月の科教協全国研究大会直前のフィールドワークでは、犬山のモンキーセンターを見学した。この前後から動物園に出かけて行って霊長類の観察を試みた。東京都では上野動物園と多摩動物公園では原猿類から真猿類、そして類人猿・ゴリラ・チンパンジー・オランウータンなどを見つめ、「サルからヒトへの進化」学習までの教育課程を作ってみたいという思いは、ますます強くなっている。

2003年提案の霊長類学習の到達目標の改訂作業の一つとして、2007年の科教協全国研究大会生物分科会で提案した内容は、小学校段階だけであり、本年その改訂作業を始めてみたが、なかなか進まなかった。

2008年発行の生物サークルの実践記録集の付録(DVD-R)には、教材用・原猿類のアイアイを収録した。

高橋 洋「アイアイ」(上野動物園飼育、2分9秒)

島 泰三「マダガスカルのアイアイ」(55秒)

前年の作品では堀 雅敏「マダガスカルの原猿」(改訂版、19分4秒)

12月例会ではつぎのような内容の覚え書を作って提出した。「3.類人猿・・・」は教材を提示しての提案である。

1. サルとはいかなる動物か

- (1) 生物分科会での「サル」とその映像の編集
- (2) さる、サル、猿
- (3) サルは霊長類か

2. ヒトの初歩的な概念

- (1) 霊長類の特徴
- (2) サル(霊長類)、類人猿、ヒトの区別を、学習のどの段階で行うか
- (3) 霊長類の特徴(2)
- (4) 類人猿の特徴
- (5) ヒトの特徴

3. 類人猿・ヒト・人類の指導の一例

<2008年12月21日>